

第24回一関市景観審議会 会議録

- 1 会議名 第24回一関市景観審議会
- 2 開催日時 令和7年9月22日（月）午後1時30分から午後5時まで
- 3 開催場所 一関市役所2階 議会棟議員全員協議会室
- 4 出席者
 - (1) 委員 北原啓司委員（会長）、三宅諭委員、船山賢治委員、村上恵志委員、橋本温子委員、高橋浩委員、阿部忠委員、大星学委員、高橋系子委員
※欠席者 菊池薫委員、伊藤周平委員、佐々木賢治委員、小野寺浩樹委員、原田哲委員
 - (2) 事務局 阿部健一建設部長、千葉義昭建設部次長兼都市整備課長、佐藤高志課長補佐兼建築指導係長、佐々木智行都市整備課建築指導係主査、菅原梨恵子都市整備課主任技師
- 5 議 事 第14回一関市景観まちづくり賞の審査について
- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者 1人（うち報道機関1人）
- 8 委嘱状交付
委員の変更による変更委員の紹介と次期委員へ委嘱状を交付した。
- 9 市長挨拶

皆様、大変お忙しい中お集まりいただきまして、感謝申し上げます。本日の一関市景観審議会におきましては、「第14回一関市景観まちづくり賞」の審査をして頂きます。

本表彰は、お配りの次第にもある通り、一関市景観まちづくり条例の規定に基づき、地域の魅力ある景観を守り育て、次世代へ継承するため、優れた景観形成に貢献している建造物等及び市民等の景観まちづくりに寄与する活動等を表彰し、市民、事業者の景観まちづくりに対する意識の高揚と景観の質の向上を図るものであります。

審査においては、建造物等の「形のあるもの」と、活動などの「形のないもの」を対象としておりますが、こうした取組は、良好な景観を形成するうえで重要な意義を持っております。

私なりに、心に残っている「一関の風景（景観）」を3つほどお話しすると、一つは「夏祭り」の光景です。今は、シャッターがおりてだいぶ寂しくなりましたが、当時は真っ直ぐ歩けないほど賑わっていたのを記憶しています。二つ目は、学校の校庭から見る入道雲や青空、それが蟬の声とシンクロして当時を懐かしく思い出します。三つ目は、磐井川の堤防から栗駒の山に沈んでいく夕日の光景は心に強く刻まれており、このよう

な日常の中の景観は地域の魅力として次世代に受け継がれていくものと考えております。

一関に限らず、地方都市共通の課題ですが、人口減少や若者の都市部流出などにより、地域社会は厳しい状況に直面しております。高校卒業後、多くの若者が仙台や東京など都市部へ進学・就職し、地元に戻ってこない現状があります。私も、いったん出て戻ってきましたが、思い出すのはやはりさっき言ったような光景であり、戻りたい要素にもなると思います。景観まちづくりを通じて地域の魅力を高め、定住や回帰につなげていくことも大きな課題であると認識しております。

委員の皆様も景観に対して思いはいろいろあるかと思いますが、ぜひ活発なご議論をお願い申し上げます。

10 諮問書の伝達

第14回一関市景観まちづくり賞の審査について千葉次長から北原啓司委員（会長）に諮問書を手交した。

11 議 事

現地視察の後、事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委 員 今回2件、まず「ガーデンカフェ k i r a r a」の方から感想を述べたい。オーナーがおっしゃっていたが、かつてはパチンコ店で、廃業してから20年ほど空き地になっていた敷地だったということだ。隣には葬儀場があり、私の記憶の中でも暗いイメージの通りだったと感じていた。本日初めて現地に行ったが、道路に向かって広く芝生の広場が広がり、その奥に建物が配置されていて、地域に新しい明るさを与えていると感じがした。

藤沢の街並みはシャッター通りで活気が見られない状況だが、その入り口にこの施設ができたことは大きな活力を与えるものであり、文句なしで景観賞に値すると思う。

次に「プレステージ・インターナショナル」についてだが、空撮写真では厳美溪をインスパイアしたコンセプトで設計したという説明だったが通常の街並み目線ではその景観的特徴を感じられなかったのが残念。ただ、非常に広大な敷地で、造成されるにあたり、西側の道路沿いに元々の樹木を極力残しており、西側の住宅地への影響を抑えていること、また建物を中央に配置し周囲に余白を生み出していることなどは、景観への配慮がなされていたと感じた。

委 員 私は、「プレステージ・インターナショナル」から申し上げる。山の中にあるため、元々の樹木が残っていれば良いというイメージを持っていたが、現地では残された樹木が周囲からの視線を遮り、施設を隠すような効果を出していると感じた。植えられたばかりの木もあり、将来的にはさらに景観に馴染んで

いく印象だ。外装も反射を防ぐ素材が使われ、大きな建物でありながら目立たない工夫がなされている。ただ、設備機器を囲う部分が少し低く中途半端で、そこは残念に感じた。

続いて「ガーデンカフェk i r a r a」だが、建物が緑に溶け込み、明るい色使いも店舗として良い印象を与えている。周囲は木製フェンスで囲まれ、真っ白な壁が緑に対して抑えられた印象を与えていた。ドッグランのフェンスも柔らかい色で、周囲の景観に配慮されていると感じた。私としては両者推薦に値すると思う。

委員 「プレステージ・インターナショナル」を見て、天気が良かったこともあり、芝生の緑と黒い外壁の落ち着いた雰囲気印象的だった。看板も現地で見ると違和感はなく、冬を想像すると外壁の黒が雪景色に馴染み落ち着いた感じなのではないかと思う。周囲の山や緑と調和しており景観に工夫がされていると感じた。

「ガーデンカフェk i r a r a」も、芝生や敷地の広さ、背景の山と調和しており、違和感はない。私としては両方とも評価できると思う。

委員 「プレステージ・インターナショナル」については、かつて病院跡地が荒れていた状態から近代的な建物が建設され、広々とした開放的な空間が生まれたことに感銘を受けた。内部の内容も素晴らしく、一関の巖美溪をモチーフにしたという事で、色彩のコントラストを興味深く見たが落ち着いていていいと思う。今の一関は、NECとか、北上製紙とか大きな企業がなくなり寂しく思っていたが、一関市の発展に寄与するものだと感じる。病院跡地に存在感のある建物が完成したことは大きな意味を持ち、市民に刺激を与えるものだった。

「ガーデンカフェk i r a r a」については、洋風と和風が調和し、広々とした開放感と工夫を凝らした設計が見られ、地域の人々に親しまれる施設であると感じた。両方ともに評価に値すると思う。

委員 事務局の皆様、本日のご案内ありがとうございました。まず「プレステージ・インターナショナル」についてだが、第一印象として先導的な取組であると感じた点は、再生可能エネルギーの活用である。駐車場屋根に太陽光発電設備を設置しており、近年、迷惑施設と見なされがちな設備について、新たな活用の在り方を示していると評価できる。また、市民に対してレストランを開放している点も重要な地域貢献であり、ぜひ推薦したいと考える。

「ガーデンカフェ」については、私自身、20年以上前、千厩に勤務していた時に藤沢町を訪れた際に、当地にパチンコ店が存在していたことを記憶してい

る。その後、長期間にわたり空き地となっていた場所が、地域に馴染む施設として再生され、犬好きのオーナーが地域貢献の思いを持って運営している点に強い感銘を受けた。まさに表彰にふさわしいと考える。

委員 「ガーデンカフェk i r a r a」は、自然に包まれた芝生広場と落ち着いた色合いの小さなカフェで、地域に良く馴染んでいると感じた。軒下でくつろぐことのできる空間があり、裏には坪庭も設けられており、非常に工夫された造りであると感じた。冬季には営業を休止するとのことであるが、65歳以上のお母さんたちが働いていて、雪かきも大変だという事で自然条件に即した運営方針であり、特段の問題はないと考える。

「プレステージ・インターナショナル」については、ドローン映像でなければ全景を把握できない点が残念であった。厳美溪を意識したデザインであるとの説明があったものの、私自身には違和感が残った。ただし、太陽光発電の導入や芝生広場の整備、地域住民も利用可能な施設を設けている点については評価できる。花壇等の整備がなされていれば、より良好であったと考える。

委員 「プレステージ・インターナショナル」は、広大な敷地に既存の樹木を残しつつ建物を配置しており、将来的には周囲の自然に溶け込んでいくことが期待できる。外装材についても、反射を抑える配慮がなされており、大規模建築でありながら周辺環境への配慮が感じられた。

「ガーデンカフェk i r a r a」は小規模な施設であるが、設計に工夫が見られ、大きな窓を通して建物裏側の緑も感じられるなど、広がりのある空間構成が特徴的であった。地域に親しまれる施設としてふさわしいと思う。

委員 「プレステージ・インターナショナル」については、建物デザイン自体には良い印象を持たなかったため、評価は三角とした。ただし、使われなくなった土地を再利用するという点においては意義があり、地域に新たな企業を呼び込んだ取組として評価できると感じている。周囲の景観に溶け込もうとする努力についても理解できるが、景観賞にふさわしいかどうかについては判断に迷いが残る。推薦理由の文章を委員長が記すに当たっては、苦勞されるのではないかと感じたが、これからここが景観に馴染んでいくという事を期待したい。

一方で「ガーデンカフェk i r a r a」は、委員各位の意見のとおり、非常に分かりやすく景観形成に寄与しており、申し分ないと考える。近隣に葬祭場があるにもかかわらず、それを感じさせない点や、手前の道路および芝生と一体となった空間構成は快適であり、今後多くの人々に親しまれる場になると確信している。

議 長 私の印象としても、「ガーデンカフェk i r a r a」は景観賞に相応しいと考える。パチンコ店跡地というネガティブなイメージを、緑を生かした理想的な空間へと転換しており、まさに景観まちづくり賞にふさわしい事例である。冬季の休業についても、自然条件を踏まえた対応として理解できる。

「プレステージ・インターナショナル」については、上空から見たデザインは把握しにくい面があるものの、既存の緑を残して活用している点や、病院跡地をこれからの一関の発展に寄与している点については評価できると考える。建物デザインそのものは景観的に目立たないものの、応募者の説明と実際の印象との間に差が見られた。設備の後ろが見えているなどの課題は残るものの、地域に新たな役割を付与した点については評価してよいと判断する。

以上を踏まえると、両案件ともに推薦することで意見がまとまったものと考ええる。

議 長 本日の審議の結論として、「プレステージ・インターナショナル岩手BPOフォートレス」および「ガーデンカフェk i r a r a」の2件を、第14回一関市景観まちづくり賞・景観部門の受賞候補として推薦することとする。

12 答 申

北原啓司委員（会長）より市長に答申した。

13 担当課 建設部都市整備課